

金山病院入院患者分析からわかること 広報げろ 2014.06

金山病院入院患者分析からわかること

金山病院では多くの方々が入院し、退院していかれます。今回は退院された患者数をもとに地域を支える病院の役割について考えてみます。

◎この 20 年間金山病院では最も多い年には年間 872 人の退院がありました。平成 25 年には 684 人が退院し、退院患者数は徐々に少なくなる傾向にあります。人口が減っているから当然という考え方もありますがここで注目しなければならないのは 60 歳未満の利用が減少しているのに対して 60 歳以上は徐々に増加している傾向にあることです。平成 25 年には 492 人で 60 歳以上の入院利用者が著明に増えており、高度の治療を要する場合を除いて、金山病院が近くで利用できる病院としての機能を果たしていると考えられます。

◎金山病院入院患者数を地域別に見ると、金山町では徐々にその割合を増し、最近では 70% 前後となっているのに対し、金山町以外の下呂市の利用者は徐々に増加しているものの 8% 前後で病院利用のすみわけができていると考えられます。また入院できる病院が近くにあることも重要であることを示しています。下呂市外の利用は入院患者の 25% 近くを占めており行政区を超えた広範な診療圏の信頼を得ていると考えます。

◎性別でみると男性がわずかに女性を上回っています。

◎病院死亡は毎年 60 人前後で悪性腫瘍、肺炎などが多くを占めます。老衰はわずかですが看取りも病院の役割の一つとして今後この方面でも積極的に受け入れて家族の負担を軽減し、地域を支えていく必要があると考えます。

◎入院の主要な原因となった疾患別に見ると最近では、最も多くを占めるのは消化器疾患で、呼吸器疾患、骨折などの整形外科的疾患、脳梗塞などの神経疾患などが続いています。循環器疾患は病院の専門外ということもあって 5 位となっています。いずれにしても高齢者に多い疾患が優位を占めているのは当然といえます。消化器を含めた悪性腫瘍は 8% 前後で地域を支える病院としては割合が低いと考えています。今後のがんの増加を考えると、がん診療の充実にさらなる努力が必要と考えています。

◎長期の入院として、最近では入院後 3897 日目に死亡した例があります。長期療養中に帰る家がなくなったり家族の受け入れができなくなったり理由は様々ですが現在長期入院が病院経営を圧迫する政策がとられており適正な在院日数を目指しています。

◎新しい金山病院は将来のためでなく、今生活している皆さんのために新築されました。現在の推計では当地域では 60 歳以上の人口は今後 10 年間減少することはありません。その人たちが病院を利用することによってまた、住民と行政が協力して病院を存続させることが下呂市の未来を明るいものにすると考えます。

下呂市立金山病院顧問 古田智彦